

天文学のすすめ

証券取引所の場立ちさん（競りのような方法で売り買いの注文を入れる人）が話しています。

「大学で勉強したこと、仕事にちっとも役に立っていない」「いや、僕は役に立っている」二人は大学でそれぞれ経済学と天文学を勉強して証券会社に就職し、場立ちさんになったのです。どっちが経済でどっちが天文でしょうか？

日本の経済、懲りもせずこれからも何回ものバブルを繰り返し、さらにそれ以上の回数の大規模政治汚職をくり返していますます混乱していきましょう。大学で習った経済学、そんな社会での場立ちさんとしての自分の生きる道を示してくれるのでしょうか？

自然を、そして物事を全体として眺めるという天文学を通して学んだ場立ちさんは、バブルに揺られる場立ちさんとしての自分の仕事を客観的に見るのに役立ち、身の処し方を教えてくれたに違いありません。

そうです、正解は「役に立たない」が経済で、「役に立った」が天文でした。普通日本では場立ちさんになろうと思えば経済に行く、が常識です。でも、事実は逆ですね。大変な誤解がこの社会に蔓延していることがわかります。なぜこんなことになったのでしょうか？

答えは二つ。第一は日本に天文学を勉強できる大学が極端に少ないからです。「天文」「宇宙物理」などの教室をもつ大学は五本の指以下です。天文学を勉強したくてもできないのです。第二の理由は場立ちさんの仕事って証券関係、それなら経済と関係ある。そんな考えがあるからでしょう。

この二つの理由、どっちもうそです。

天文教室はなくても天文学を専門とした先生をおいている大学ならかなりあります。チャンスは不十分ですが開かれているのです。第二の理由、経済学部で場立ちにすぐ役立つ知識を教えませんが、場立ちの仕事、どちらかと言えば「もうけ」

で、「経済」ではないのです。もうけ方を主として教える経済学部なんて大学として失格ですね。

この二つの理由、うそだとしてもいろいろ考えさせてくれます。

開かれているといっても天文を勉強するチャンス、まだまだ狭いのです。たくさんの学生がチャンスを求めています。天文学で学生が来なくて閉古鳥が鳴いている先生なんて聞いたことがありません。この「国民的要求」に沿うためには全国にたくさんの天文教室を作る必要があります。

天文の学生を欲しがらる会社なんてないぞ、卒業生の就職はどうするんだ、の反論は説得力があります。さらに「大学は役に立つことを教えないからけしからん」と言う偉い人もいます。そんなことを言われたら天文学、大学で教えるどころか学問としての存在も「けしからん」になりそう、そしてもちろん場立ちに役に立たない現在の経済学部も失格になりそうです。

そんな要求にあわてて役に立つ教育を考える大学が増えてきているのも事実です。そうなれば日本の大学はますます経済アニマル養成所になり、受験地獄受け皿になる、そして天文学を勉強したい「国民的要求」は閉ざされることは確実です。

「経済学部だって工学部だってすぐ役立つ知識なんて教えません。そんな大学は、大学として失格と思いませんか？」「天文学は非常に広い範囲をカバーするのでどんなことでも勉強できます。だまされたと思って雇ってご覧なさい。」こんなせりふを用意して、新しく開かれた天文教室（古い天文教室はだめでしょうから）教授たちが十年、靴を何足も履きつぶして就職運動に回ればいいのです。マーケットは必ず開けます。

「国民的要求」では社会は動かないよ、これもかなり説得力があります。ここで社会というのは政府とか予算とか監督官庁のことでしょう。それも社会の一部であります。いやでも相手にしないわけには行きません。これだって上の反論と同じく「やるっきゃない」で行くよりないでしょう。

そうやってみんなで「やるっきゃない」して日本中に天文教室を作りましょう。新聞雑誌、学校や教育機関、放送出版は言うに及ばず、場立ちさんにお役人、不動産屋に政治家、日本中を、すべて職業を天文卒業生で埋めましょう。

そんなたくさんの天文学生から、特によりすぐって天文の研究を続けたい人が出てきます。より大きな母集団から出たこれらの人、研究能力も高いはずで、そして同窓生は広く社会でユニーク

な活躍をしています。天文学対社会、いろいろな面で（すぐに寄付集めなんて短絡したとしても）やりやすくなっているでしょう。

広い範囲で物事を見、そして個々の現象にも適用していく力量をもった人が日本にあふれるのです。バブルに地あげ、政治家の汚職、学校に教育、天文学の研究、何一つ取っても、今とは、はっきり違った様子を見せるでしょう。

森本雅樹（野辺山電波天文台）

月報だより

人事公募

「天文月報」での人事公募記事を読み易く整理するために、以下のように標準書式を決めてみました。なるべく、この項にしたがってご投稿下さいますようお願いいたします。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）
2. (1)所属部門・所属講座, (2)勤務地
3. 専務分野
4. 職務内容・担当科目
5. (1)着任時期, (2)任期
6. 応募資格
7. 提出書類
8. 応募締切・受付期間
9. (1)提出先, (2)問合せ先
10. 応募上の注意
11. その他（待遇など）

国立天文台岡山天体物理観測所教官

1. 助手1名
2. (1) 国立天文台岡山天体物理観測所
(2) 国立天文台岡山天体物理観測所
3. 光学赤外線天文学
4. 光学赤外線天文学の研究を行うとともに、岡山天体物理観測所における共同利用運用および機器・システム開発等を推進する。また、大型光学赤外線望遠鏡計画にも参画する。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴, (3) 論文リストおよび主要論文別刷, (4) 研究計画, (5) 本人について意見を述べられる2名の氏名と連絡先
8. 1993年4月30日(金)必着
- (9). (1). 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台長 古在 由秀
(2) 国立天文台太陽物理学研究系
平山 淳 TEL: 0422-34-3720
FAX: 0422-34-3700
10. 封筒の表に「岡山天体物理観測所応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。